

がん化学予防および予防的手術に対する国民の認識

Public acceptance of cancer chemoprevention and surgical prevention



溝田 友里、口羽文、岩崎基、山本精一郎
Yuri Mizota, Aya Kuchiba, Motoki Iwasaki, Seiichiro Yamamoto

国立がんセンター
National Cancer Center



5-1-1, Tsukiji, Chuo-ku, Tokyo, Japan 104-0045, e-mail: ymizota@ncc.go.jp (Yuri Mizota)

背景と目的

- がん予防には、リスク要因(喫煙・塩分摂取など)を避け、予防要因(野菜・果物摂取、運動など)を積極的に行うことが必須
- 近年、より積極的ながん予防として、NSAIDsを始めとする化学物質を処方・投与していく化学予防に関心が高まっている
- 米国では、ハイリスク者を対象に、予防的乳房切除や予防的卵巣摘出術のような予防的手術も実施
- 日本での化学予防や予防的手術の開発(臨床試験など)や導入を検討するにあたっては、まず
 - リスク要因の分布を調べ、ハイリスク集団がどの程度存在するかの推計
 - 実際の国民のニーズの把握が不可欠
- 乳がんのリスク要因の分布およびハイリスク集団の把握は、調査を実施し(2009年がん予防大会にて報告)、日本版ゲイルモデルを作成中
- 本研究では、国民の化学予防および予防的手術に対する国民の意識を明らかにすることを目的とする

方法

- 調査方法: インターネットモニターを用いたインターネット調査
- 対象: 性、年代、居住地域の分布を日本の人口分布にマッチングさせた20~79歳の男女6,752人に調査への協力を依頼
- 有効回収数: 2,234人から有効回答
- 調査期間: 2009年3月27~31日
- 調査項目: 下記、各予防方法について簡単な説明(方法、リスク、ベネフィット、対象となるがんの生涯罹患率)を提示
 - 化学予防: 大腸がん予防のためのアスピリン服用
胃がん予防のためのピロリ菌の除菌
乳がん予防のためのラロキシフェン服用
 - 予防的手術: 乳がん予防のための乳房切除
乳がん予防のための卵巣切除
- 化学予防・予防的手術の利用可能性
- 化学予防・予防的手術をやりたくない理由(がんになる確率が100%でも「予防を行いたくない」と答えた回答者に)

質問内容

大腸がん予防のためのアスピリン服用

- ・「アスピリン」とは、消炎鎮痛剤(痛み止め)で、大腸がん予防効果があると考えられ、現在研究が行われています
- ・アスピリンの服用により、大腸がんになる確率は半分になることが期待されています
- ・毎日1回、5年間継続して服用する必要があります
- ・数%の人に胃炎などの副作用が起こります
- ・日本人の平均では、生涯で大腸がんになる確率は、10人に1人といわれています

胃がん予防のためのピロリの除菌

- ・「ピロリ菌」は慢性胃炎の原因で、日本人の2人に1人がピロリ菌をもっています
- ・ピロリ菌が胃がんの原因になることが明らかになり、ピロリ菌を除菌することで胃がんが予防できると考えられ、現在研究が行われています
- ・ピロリ菌の除菌により、胃がんになる確率は半分になることが期待されます
- ・除菌には、3種類の飲み薬を7日間服用する必要があります
- ・服用により、下痢や胃もたれなどの副作用が起こることがあります
- ・日本人の平均では、生涯で胃がんになる確率は、男性で10人に1人、女性で20人に1人といわれています

乳がん予防のためのラロキシフェン服用

- ・「ラロキシフェン」とは骨そしょう症治療に用いられるホルモン剤で、乳がん予防効果があると考えられ、現在研究が行われています
- ・ラロキシフェン服用により、乳がんになる確率は半分になることが期待されます
- ・毎日1回、5年間継続して服用する必要があります
- ・血液のかたまりで血管が詰まる「血栓症」になるリスクがやや高まるといわれています
- ・妊娠の可能性のある人は、服薬中は避妊をしなければなりません
- ・日本人の平均では、生涯で女性が乳がんになる確率は20人に1人といわれています

乳がん予防のための乳房切除

- ・乳房切除により、乳がんになる確率はほとんどなくなります
- ・日本人の平均では、生涯で女性が乳がんになる確率は20人に1人といわれています

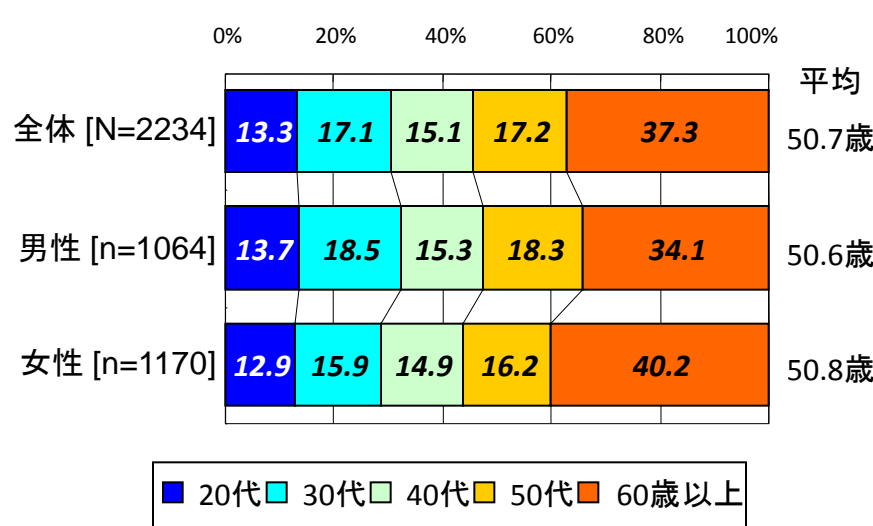
乳がん予防のための卵巣切除

- ・卵巣切除により、乳がんになる確率は半分になります
- ・日本人の平均では、生涯で女性が乳がんになる確率は20人に1人といわれています

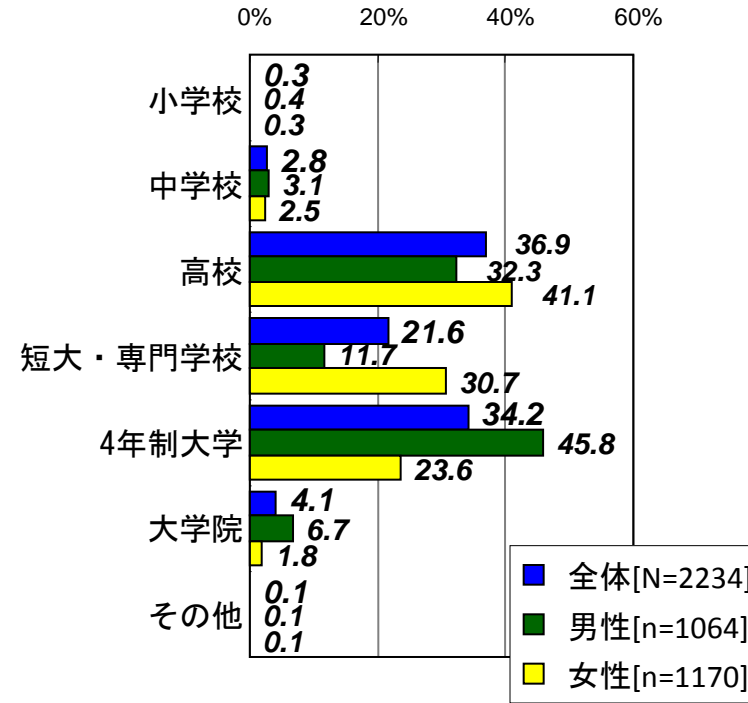
「あなたが生涯で〇〇がんになる可能性が何パーセントだったら、その予防方法をやりたいと思いますか？」

結果・考察

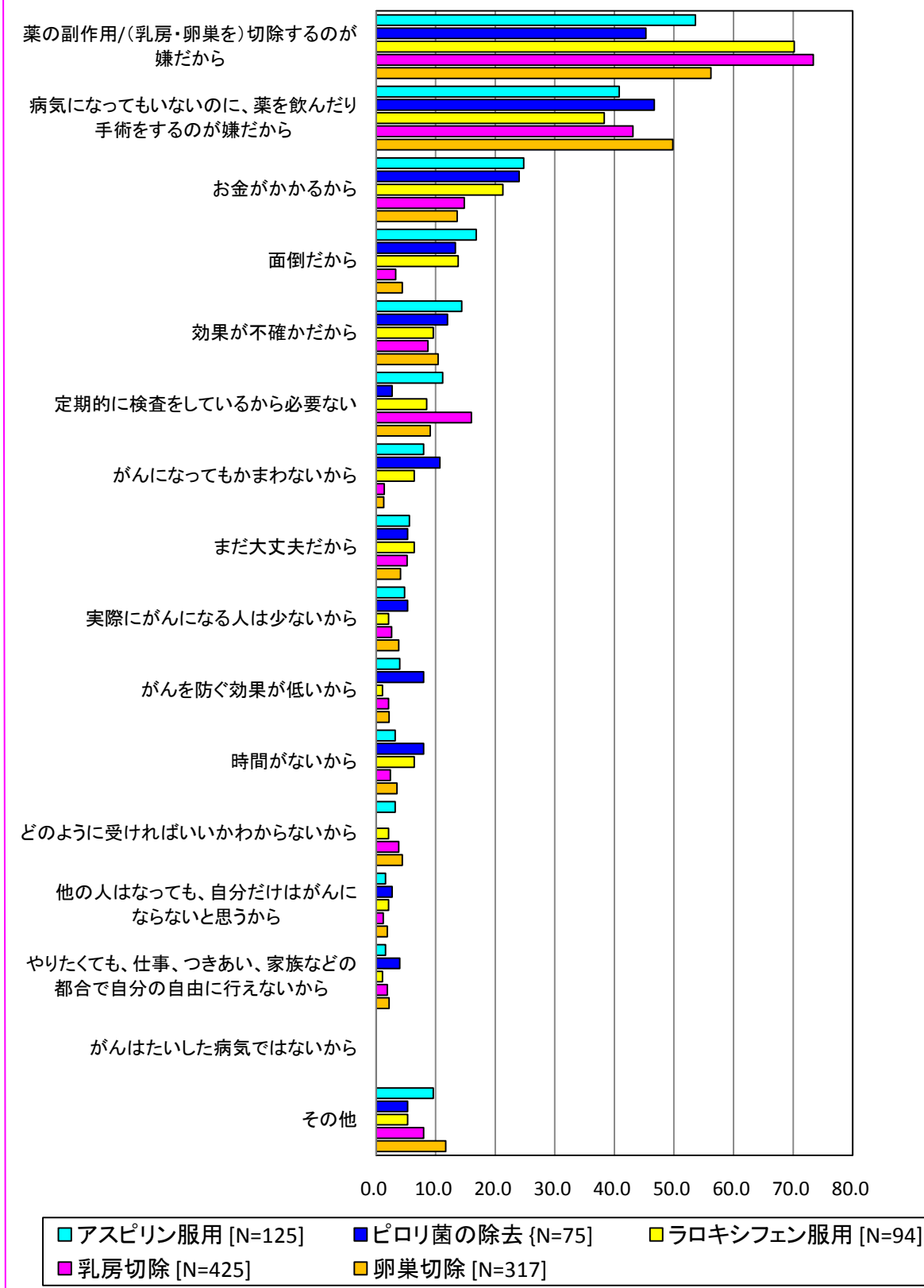
結果1-1: 回答者の性別・年齢



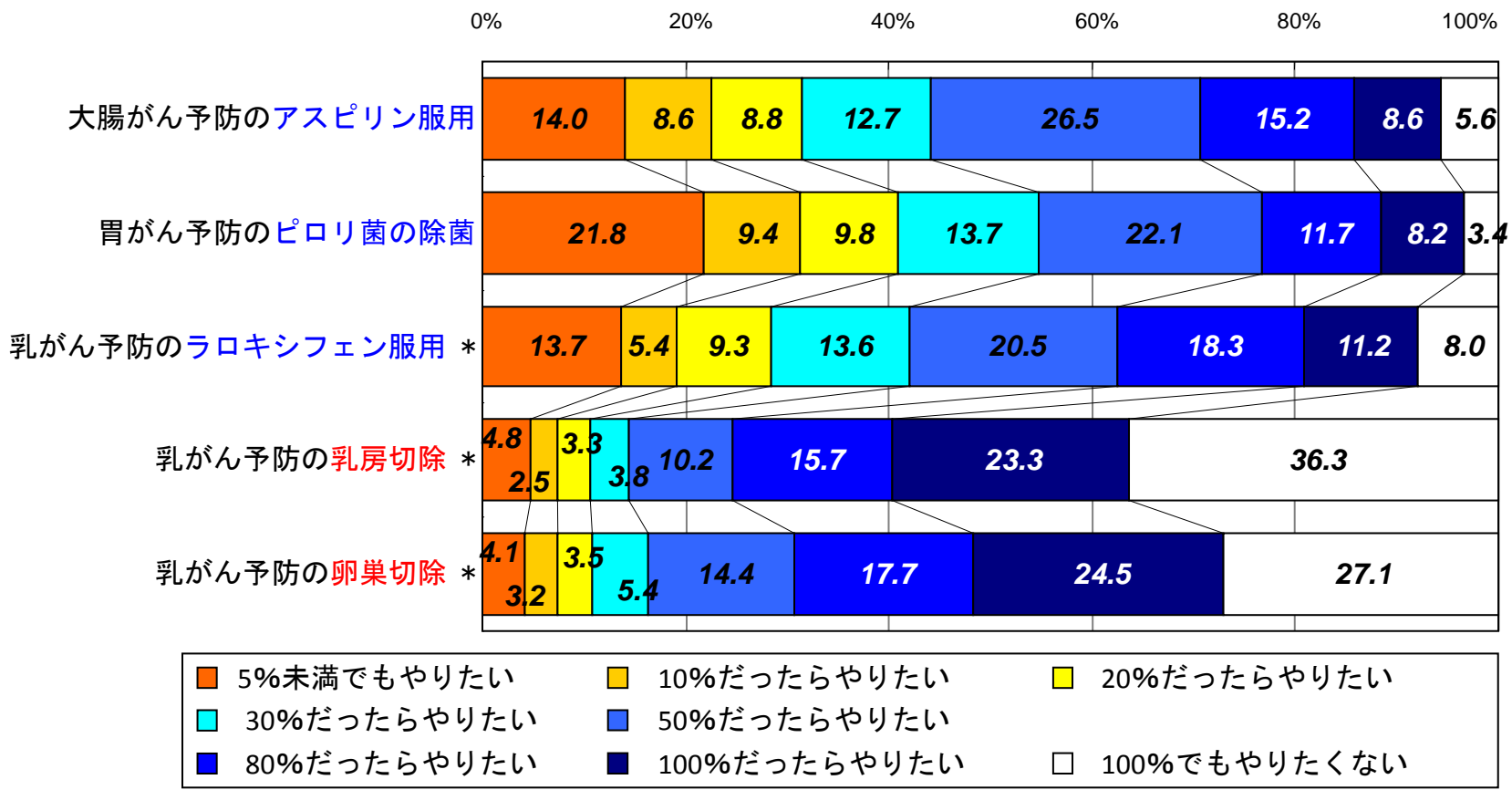
結果1-2: 最終学歴



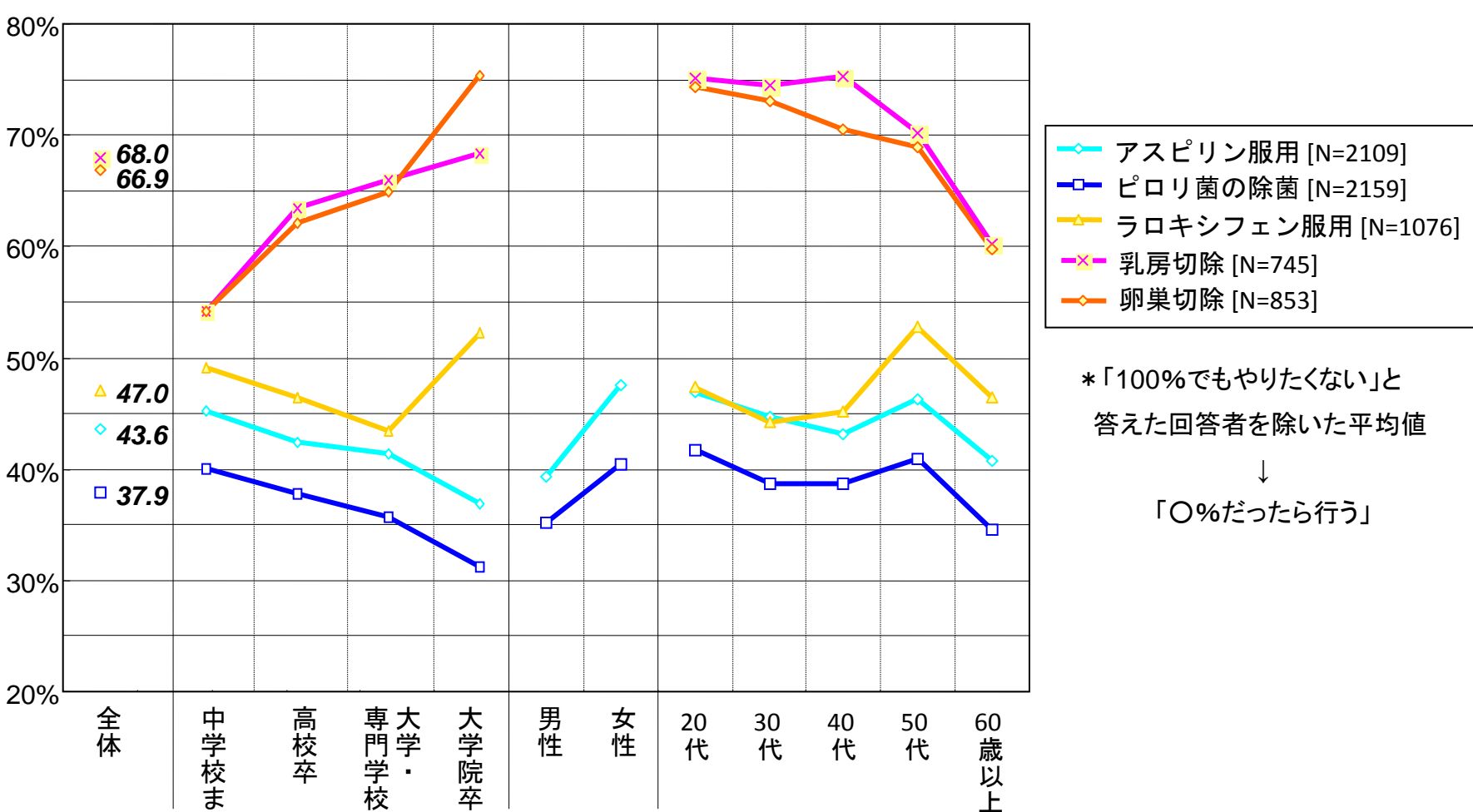
結果4: 自分ががんになる確率が100%でも「やりたくない」理由 (複数回答)



結果2: 化学予防・予防的手術の利用可能性



結果3: 属性別にみた化学予防・予防的手術の利用可能性



- アスピリンとピロリ菌は7割の回答者が、がんになる確率が50%未満でも「やりたい」
- ラロキシフェンでは6割が50%未満でも「やりたい」
- ピロリ菌では、2割以上が5%未満でも「やりたい」
 - ⇒ 服薬による化学予防は受容の傾向
- 乳房切除と卵巣切除は、50%未満でも「やりたい」は3割未満で、100%でも「やりたくない」はそれぞれ4割と3割
 - ⇒ 予防的手術には強い抵抗感
- やりたくない理由は、化学予防、予防的手術ともに、「薬の副作用/(乳房・卵巣)の切除が嫌だから」、「病気になってもいいのに薬を飲んだり手術をするのが嫌だから」が多く、次いで「費用がかかるから」
- 各予防法は開発や検討が行われつつある段階であり、日本人を対象とした証拠がないため、本研究で示した各予防法のリスク、ベネフィットは海外の文献レビューなどをもとにした仮定のものであり、説明も簡潔
- 本研究結果をそのまま国民の化学予防へのニーズとすることはできない
- 化学予防や予防的手術の開発や臨床試験、導入を検討するうえでの重要な基礎資料